

カイコの飼育が始まります！

総合的な学習の時間において、カイコについて学ぶ活動を行っております。日に日に大きくなるカイコを観察しながら「凄い勢いで食べている。」「フンの大きさが変わってきているぞ。」等、様々な気付きを増やしている子供たちです。

養蚕業は町田市で昔から行われてきた、伝統的な仕事です。それについて実物に触れながら学ぶことを通して、自分たちが住む地域に古くから伝わるものについて、より身近に、より深く感じてほしいと担任一同願っております。

先日配信した学年だより5月号に記載した通り、子供たちによるカイコの飼育が始まります。子供たちには、6月 10日（火）の週に配布する予定です。以下に飼育についての注意点等を記しておきますので、ご家庭での飼育の参考になさってください。



①カイコの配布数について

子供たちには、カイコを3頭ずつ配布します。ある程度成長したカイコは、気候の変化にも多少強くなっていますが、生き物なので全て健康に成長するとは限りません。しっかり愛情をもって、世話をしようとお声掛けをお願いいたします。

②学校、ご家庭でのカイコの扱いについて

飼育し始めたカイコは、毎週金曜日に、ご家庭に持ち帰り、その翌週の月曜日に学校に持ってきます。カイコの一生はおよそ1か月半～2か月なので、一日一日に変化が見られます。学校の授業でしっかり観察を行いますが、ぜひご家庭でもカイコの様子を見てあげてください。

③カイコの餌について

カイコは基本的には「クワの葉」しか食べません。餌となるクワの葉については、学校で子供たちに毎日配布いたします。週末には、2～3日分をまとめて配布します。金曜日に、密閉袋（チャック付きポリ袋）を持たせていただき、学校で配られたクワの葉を入れます。クワの葉は乾燥に弱いので、余ったクワの葉はお家の冷蔵庫に入れてください。冷蔵庫で保管すれば3～4日はもちます。



④カイコの今後について

子供たちが飼育するカイコは、順調に育っていけば6月中旬から下旬にかけて繭を作ります。繭を作った後は、今後の学習のために一部を成虫にしたり、繭のまま冷凍して糸取りの材料にしたりします。『学習のためにカイコの命をいただく』ということをしっかり考えさせたいと思っています。



カイコの飼育 Q&A

カイコを飼育していく中で、様々な疑問が生まれてきます。よくある疑問、質問について以下にほんの少しですが記しておきますので、子どもたちとの飼育の参考になさってください。

Q1、家の近くにクワの葉に似たものがあるけれど、あげても大丈夫か？

A1、クワの木は、小山の町には広く分布しています。

葉の形も丸っこいものや、先がたくさん分かれて
いるものなど様々ですので、「これはクワかな？」
と思ったらカイコにあげてみましょう。

食べたらクワの葉、食べなかったらクワの葉ではありません。
ただし、道端に生えているクワには、砂ぼこりや消毒薬などが
ついている場合があるので、よく洗って水分を拭き取ってから
与えるようにしましょう。



Q2、カイコが動かなくなった。死んでしまったのか？

A2、カイコは脱皮をして、体をどんどん大きくしていきます。

一生のうちに4回程脱皮をしますが、脱皮をする前に
「眠（みん）」というじっと動かなくなる時期があります。

およそ1～2日眠の状態が続くことがあるので、死んでしまった
と勘違いしないようにしましょう。

眠の時期にむやみに触ったり動かしたりすると、脱皮に失敗して
死んでしまうことがあるので注意しましょう。

じっと頭を高く持ち上げて、まるで
眠ったように動かなくなります。



Q3、カイコがしたフンや、食べ散らかしたクワの葉はどうしたらよいか？

A3、カイコも人間と同じように病気になることがあります。

人間と違って、カイコは一度病気になったら治すことは
できません。病気にしないように出来ることとして「飼育箱を
いつも清潔にすること」があります。カイコがしたフンや、
食べ残ったクワの葉は放っておくと腐ってしまうこともあるので
しっかりと取り除いてあげましょう。



Q4、カイコが死んでしまったらどうすればよいのか？

A4、カイコは生き物ですので、うまく育つことができず死んで
しまうこともあります。命尽きてしまったカイコは、土に
埋めてあげたり、外に出しておきましょう。そうすると鳥や
他の虫の餌になって「食物連鎖」になります。その際には、
「今までありがとう。」という気持ちをしっかりとつように
心がけましょう。

